

第4回独立行政法人国立病院機構（NHO）ビジョン検討委員会 議事概要

1. 日時

令和6年12月9日（月）15：00～16：00

2. 場所

独立行政法人国立病院機構本部大会議室

3. 出席者

委員

相澤 孝夫	一般社団法人日本病院会会長
◎新木 一弘	独立行政法人国立病院機構理事長
家保 英隆	全国衛生部長会会長
江面 正幸	独立行政法人国立病院機構仙台医療センター院長
○大西 友弘	独立行政法人国立病院機構副理事長
角田 徹	公益社団法人日本医師会副会長
金兼 千春	独立行政法人国立病院機構富山病院院長

（五十音順）

◎：委員長、○：副委員長

オブザーバー

森光 敬子	厚生労働省医政局長
永田 昭浩	文部科学省高等教育局医学教育課大学病院支援室長

参考人

横山 直樹	一般社団法人全国医学部長病院長会議事務局長
-------	-----------------------

4. 議事内容

- 事務局（福田医療部長）より、資料について説明。
- 各委員より、下記のような意見があった。
 - ・ 資料の6（3）①（15ページ）に「在宅医療支援、介護分野等への展開」とあり、6（3）②（16ページ）にも「在宅医療・介護分野への参入等」とあるが、基本的には機能を集約していこうという考え方の中で、介護という新たな事業に

参入するのは、方向性が違うのではないか。

- ・ セーフティネット関係など、一般の医療機関がほとんど実施していない部分の在宅療養支援や介護という意味であれば非常に理解しやすいが、それ以外の部分も含めて国立病院機構が全面展開するのか。在宅医療や介護は経営的に非常に厳しい状況でもある。主に重症心身障害、筋ジストロフィーなど、一般の医療機関が参入していない分野についてであると記載した方が、誤解が生じないのではないか。
- ・ 介護というよりは、福祉分野とした方が理解しやすいのではないか。
- ・ 高齢者が増えると、治すだけの医療ではなく、治し支える医療が必要であり、医療から介護は分岐点が明確ではなく、連続的に必要になってくるため、ビジョンに介護分野への展開を入れたことは、今後の世の中の人口変動に対してしっかりと対応することを示しており、評価している。介護分野に特に展開するという誤解が生じないように、医療から介護へ連続的に患者のために行うという意味合いであると、注釈を付記すればよいのではないか。
- ・ 病院長等から、グループや病院の独自の方針や裁量をもう少し認めてほしいという意見があった。そこについて検討していくことを示した方がよいのではないか。
- ・ グループや病院にどのように権限を委譲するのか、具体的な考えがまだないため、方向性に関する考え方みの記載になっているという状況である。
- ・ 140 病院、特に地域で不可欠の医療を赤字にもかかわらず提供している病院については、本部と病院が協力して地方自治体に財政支援を働きかけていくことが重要。
- ・ 高齢者人口がピークを迎える 2040 年に向けて幅広く検証した上で、諸課題を整理し、その上で国立病院機構の役割や使命に沿って検討しており、素晴らしいビジョンが策定できた。特に一般診療に加え、重症心身障害、神経・筋疾患、精神医療など質の高い医療を提供しているが、一方では収益を上げにくい分野であることも確かであり、経営改善に向けた対応も重要な課題と感じている。

○ 国立病院機構（NHO）ビジョンの最終的な文案については、委員長に一任することです承された。